

実施年月日 : 平成____年____月____日

お子さんの名前 : _____ (男・女) 平成____年____月____日生 満____歳____ヶ月

保護者の名前 : <父親> _____ (_____歳) <母親> _____ (_____歳)

現住所 : _____

連絡先電話番号 : _____ (_____) FAX : _____ (_____)

家族構成 : _____

主な心配 :

相談所見 :

今後の対応 :

相談機関名 : _____ 担当者名 : _____

結果の整理：

1. 領域ごとに得点を求める。はい（4点）、ややはい（3点）、ややいいえ（2点）、いいえ（1点）として単純加算する。
2. ただし、質問項目のうち領域ⅣとⅤの項目は逆転項目なので、はい（1点）、ややはい（2点）、ややいいえ（3点）、いいえ（4点）として単純加算する。すなわち、得点が高いほどネガティブとなる。
3. 各領域ごとに下記の表に結果をまとめる。
質問票の領域Ⅰ父親の育児困難感タイプⅠは14点以上、領域Ⅱ同タイプⅡは11点以上、領域Ⅲ父親の自身の不安・抑うつは14点以上、領域Ⅳ父親の夫婦関係は13点以上がハイリスクとなる。なお、各領域の得点は最低4点から最高20点の範囲である。

整理表

	基準点	各領域点
領域Ⅰ 育児困難感タイプⅠ	14点	
領域Ⅱ 育児困難感タイプⅡ	11点	
領域Ⅲ 父親自身の不安・抑うつ状態	14点	
領域Ⅳ 夫婦関係のあり方	13点	

注：領域Ⅴの2項目は重要な質問項目として追加したものである。これは得点化はしないもののネガティブな回答である場合には注意を要するものである。

結果の解釈：

1. 育児困難感得点が高い場合には、育児に関してハイリスクであるので、心理相談、発達相談等の個別相談、あるいは保健師等の相談の状況により専門機関への紹介等を行う。
2. 他の領域の得点がハイリスクである場合には、家庭内においてさまざまなトラブルが生じている可能性が高いといえる。上記同様に保健指導等に当たって留意しながら面接を進めていく必要がある。
3. とりわけ育児困難感得点もハイリスクである場合には、子どもへの虐待等に留意しながら面接等を慎重に行っていく必要がある。

子ども総研式・父親育児支援質問紙スクリーニング版の利用手引き
(日本子ども家庭総合研究所・第48集(2011年度)・紀要版)

著者代表： 安藤 朗子 (日本子ども家庭総合研究所・愛育相談所)
ando@aiiku.or.jp

2012年 3月31日 第1版発行

連絡先： 日本子ども家庭総合研究所・愛育相談所
〒106-8580 東京都港区南麻布5-6-8
電話：03(3473)8311
FAX：03(3473)8408
CopyRight2012

- ・本手引き書、および質問紙は著作権上の保護を受けています。本手引き書、及び質問紙の一部あるいは全部について、上記著者代表からの文書による許諾を得ずに、いかなる方法によっても無断で複写・複製することは禁じられています。
- ・本手引き書、および質問紙に関するご質問は、上記の連絡先にお問い合わせください。

付記：本研究の子ども総研式・父親育児支援質問紙スクリーニング版について、無断使用はご遠慮ください。もし、研究のために利用される場合には、研究代表の安藤朗子までお申し出ください。

謝辞：本研究をすすめるに当たりご協力いただいた、保育園(所)、幼稚園の先生方、保健(福祉)センター・保健所の保健師、そしてお父さん、お母さんたちに深く謝意を表したい。